

令和元年度 第1回名張市地域活力創生会議での意見聴取

実施日時・場所

令和元年7月4日（木） 13時30分～15時30分 名張市役所2階 庁議室

実施体制

民産学労言官の分野から選出した、次の12名を構成員とする。

※敬称略

井上 早織	NPO法人 あぐりの杜、株式会社アグリー	杉岡 雪子	イーナバリ 株式会社
大石 成子 （当日欠席）	有限会社 モンパクトル	高田 雅之	株式会社 ネクスト・ワン
越智 友美	株式会社 アドバンスコープ	高野雄一郎	保育施設代表者事務連絡会
金 相俊 （当日欠席）	近畿大学 経営学部	畑 和伸	一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会
齊藤 公博	近畿大学工業高等専門学校	青木 俊也	株式会社 南都銀行
佐々木達也	名賀地区労働者福祉協議会	亀井 利克	名張市

実施方法

KPI（重要業績評価指標）の達成状況に加え、総合戦略に係る取組や成果等を報告し、公開により意見聴取を実施した。

主な意見・提案

（１）「元気創造プロジェクト」の各取組に関する意見・提案

- 企業では人材不足が課題。東海地域でいうと求人倍率が1以上で高くなっている。そんな中で、外国人就労者も増加してくるが、その就労支援として、言語習得などの問題もでてくるので、次期戦略の策定時の課題として取り組んでいただきたい。
- KPI指標のうち「雇用創出」や「新商品・新技術の開発研究数」については、件数を伸ばすことも必要であるが、内容も重要である。
- 「とれたて名張交流館」の売上が落ちているので、地場産の食材の販路拡大のため「とれなば」を活用し、動くスーパーマーケットとして利用できないか。
- 新規就農してからのバックアップを強化してほしい。移住してきて新規就農をするものにとっては、地元の人とのつながりが大事。定住に結び付けるためにも、地元のキーとなる人とつながるよう支援が必要である。
- 他市では、農業で自立した生活が可能となっていて、私自身も毎年20%収益が伸びてビジネスとして成立している。農業で自立できるよう、しっかりと新規就農者への支援を強化してほしい。

- キャンプ場は、観光施設としての狙いもあると思うが、教育施設にもなると思う。教育の観点で、市内の児童生徒が利用するのも施設の稼働率が上がり、効果的だと思う。
- 観光について、赤目の地元の方の話で、赤目に来られてもそこでしかお金が落ちないといった課題があり、そこがもったいない。赤目以外の地域の観光地や商店もつなげるように、もっと総合的なビジョンでできればと思う。
- SNSの効果は大きい。名張も忍者修行場としてのイメージがあるが、今後、伊賀市ともタイアップ連携していくことも一つと思う。
- 地場産業雇用促進事業・人材育成事業で、高等教育機関に在学中の生徒で奨学金をもらっている者がいる中で、このような制度支援があるということをもっと知ってもらう必要がある。奨学金が定住のきっかけにも繋がるので、このような助成制度は是非継続していただきたい。

(2)「若者定住プロジェクト」の各取組に関する意見・提案

- 市外の高等教育機関を卒業し、就職する際に名張へ戻ってきてもらえるようにできれば。Uターン、新卒・中途などを対象にしたり、また、企業が求める人材と求職者とのニーズがマッチするような就職セミナーなどがあればいいと思う。
- 子どもが被害者となる色々な事件がある中で、「見守り」というのが必要である。百合が丘では83運動を行っているが、地域での見守りが「見える化」するように、のぼりなどの設置の取組を是非、全市的にも広げてほしい。
- 市では待機児童解消のため保育施設の整備に取り組んでいただいているが、出生率が下がっている中では保育施設間での0～2歳児の取り合いが起きている。また、保育士不足の状況でもあり、0歳児は産後にしか入所しないが、保育士は4月時点で確保する必要があり、難しい問題となっている。

(3)「生涯現役プロジェクト」の各取組に関する意見・提案

- 高齢者などの買い物難民問題について、百合が丘では中心地にコンビニがあるが、中心地から離れたエリアに居住している人にも利用できるような場所に「ミニコンビニ」的な役割を果たすような機能を設置できないか。運営は地域づくりで行うこともできないか、また空き家活用としてもできないか。
- 移動手段がない人のために「動くスーパーマーケット」が効果的ではないか。店舗だといくら近くても足を運べない人がいる。ただし個人事業では儲からないのでビジネスではやっていけないと思う。市の支援などが必要だと思う。
- 奈良の吉野では、吉野コープと生協さんが協働で移動販売を行っているケースがある。儲かる事業ではないので、助成金頼りで始めたとしても、民の資金を利用しないと継続が難しい。銀行でも、移動ATMの取組をしているが、ビジネスではなく地域貢献である。こういった取り組みを行うのであれば持続していけるよう、採算が取れるスキームを作る必要がある。

- 高齢で免許返納をしている方が増える中、移動手段が課題。「名張の湯」へ行けなくなった方に声をかけて送迎したときに大変喜ばれた。地域へ繋ぐバスなどの手段があれば「名張の湯」へ足を運んで、「とれなば」で買い物ができれば、食糧の調達もでき売り上げ向上にもつながるのでは。
- 学校の空き教室を利用して、学校給食を福祉にも使えないか。空き教室を地域へ解放し、住民が利用することで児童の見守りにもなり、また独居高齢者へ学校給食を提供するなどの取組ができないか。

(4) その他の意見・提案

- 地方創生推進交付金について、事業実績額は当初の見込み額と比べてどうか。雇用創造協議会の時は、当初計画していた交付金を使い切れなかったという課題があった。たとえ、指標の目標値が達成できたとしてもそれにとどまらず、予算額を使い残しが無いようもっと地域に還元できるような工夫をしてほしい。
- 市の地方創生の取組は、地域の隅々にまで知られていない印象がある。現場の声を聞いて政策を行っていないのではないかと。もっと現場の声を反映した政策をしていただきたい。また、市民一人ひとりが名張の営業マンになってほしい。
- 農山漁村交付金など、交付金や助成金などを活用しようにも縛りがきついと感じている。ビジネスの観点から、かけ離れた基準が多い印象があるので、もう少し弾力性のある支援をいただけるよう市からも国へ働きかけるなどお願いしたい。
- 市役所の体制としては、継続するのが苦手な印象。初期支援だけでなく、寄り添い伴走的な支援をしていただきたい。手は放すけど目は離さない、そういう体制づくりをお願いしたい。
- K P Iについて、著しく伸びているところ、あるいは減少しているところは、その原因を簡単でもよいので、取組欄に加えてはどうか。